クラウドへの移行は、もはや遠い未来の事業目標ではありません。今すぐ、対応すべきビジネスニーズです。

新型コロナウィルスの世界的流行により、従来のオンサイトの映像監視システムからクラウドベースの映像監視システムへ移行する企業が増えています。なぜクラウド型映像監視ソリューションへの移行が進んでいるのでしょうか？

www.een.com

事業主がこれまでの慣行を変える理由

テレワーク（リモートワーク、在宅勤務）の導入により、事業主や労働者は新たな課題に直面しました。通常通りのビジネスを継続するために、技術的な改善の必要性が浮き彫りになりました。従来のシステムには以下のような課題があり、物理的に現場にいられないことを補うために、多くの企業が映像監視システムを使用してビジネスを遠隔で管理・監視するようになりました。

遠隔から映像を見ようとするユーザーの数が多く、サーバーに負荷がかかるためモバイルアプリケーションの画質が低下してしまう。

オンサイトのDVRまたはNVRシステムは、オンサイトで視聴し、デスクトップアプリケーション上で実行するように設計されています。映像を遠隔で視聴するユーザーが少数から全ユーザーと増えれば、サーバーの負担が増え、システム全体のユーザーに影響を及ぼす問題が発生する可能性があります。

デスクトップからモバイルへの移行時に顧客が重要な機能を失しなってしまう。

地図、レポート、APIパートナーとの統合、解析などの機能は、多くの場合、従来のシステムではモバイル・アプリケーションに変換されないことがよくあります。Eagle Eye Cloud VMSは、モバイルユーザーを念頭に置いて設計されており、閲覧しているデバイスに関係なく同じ機能を備えています。

ポート転送（開放）で遠隔から映像を視聴する時のサイバーセキュリティ対策の懸念点

従来のシステムでは、ユーザーが映像監視システムへのリモートアクセスを許可するためにポート転送が必要であり、システムは脆弱性を残したままになっています。これに対して、Eagle Eye Cloud VMSのようなクラウドベースのソリューションでは、アウトバウンド接続のみを許可し、送信時と保存時にエンドツーエンドのデータ暗号化を提供します。

お客様の成功事例

「Eagle Eye Cloud VMSは、新型コロナウィルスが世界的に流行（パンデミック）している間も、我々に大きな安心感を与えてくれました。Eagle Eye Cloud VMSモバイルアプリケーションを活用することで、1,800台のカメラとユナイテッド・プラネット・フィットネス（スポーツクラブ）の115の拠点を混乱なくスムーズに切り替えることができました。

ピープルカウントや侵入検知などのアプリケーションの解析機能もこの新型コロナウィルスが世界的に流行（パンデミック）している間も、重要な役割を果たしました。人が立ち入り禁止のエリアに入ったり、チェックインカウンターのような共通エリアに多くの人が集まっていたりすると、アラートが表示され、その通知を受け取ることができました。これらのリアルタイムのアラートを受信することで、安全なディスタンスが維持されていることを確認し、各拠点が 疾病対策予防センター（Centers for Disease Control and Prevention：CDC） によって提供されたガイドラインを遵守していることを確認することができるようになりました。

また、保存期間や解像度をリアルタイムで調整できることを知って安心しました。新型コロナウィルスの世界的流行（パンデミック）のような状況下であっても、我々の映像監視ソリューションとセキュリティ対策は損なわれることはありませんでした。イーグルアイネットワークスは、迅速かつ簡単にコストを削減する方法を提供してくれました。」

グラハム・スタニフォース氏
ユナイテッドPF経営者

クラウド型映像監視システムへの移行

これらの課題に直面し、事情主の多くの方々は、クラウドへの移行を将来の事業目標から、事業継続のための緊急のニーズと捉えています。クラウド映像監視の存在が、従来の映像監視を変えようとしています。

イーグルアイネットワークスがどのように事業主の皆様の関心を高め、どのように新型コロナウィルスの世界的流行の間も遠隔で接続を維持しているかについてお知りになりたい方は、ご遠慮なく下記までお問い合わせください。

イーグルアイネットワークス株式会社
電話：03-6868-5527
eMail: APACsales@een.com

新型コロナで加速するクラウド利用